

臨床美術画家 佐藤雅彦 - 私のこれまでの の人生小説風物語

岐阜県海津市、田園風景が広がる小さな町に、1954年、私は6人兄弟の次男として生まれました。兼業農家の家庭で育った私は、幼い頃から算数に親しみ、農業の手伝いと勉強を両立する日々を送っていました。作文は苦手でしたが、論理的に物事を考える力はこの頃から培われていたのかもしれませんが。

高校では岐阜県立大垣工業高校電子科に進学しましたが、家計の事情から就職を考えていました。しかし、父の退職をきっかけに大学進学の道が開け、名城大学工学部数学科に現役で合格。難関とされた数学科を4年で卒業し、夢だった数学の教師となりました。しかし、自分に合わないと感じ、新たな挑戦としてシステムエンジニア(SE)の道を選びました。



32歳の頃には川口市の東南角部屋の4DKの新築マンションを購入し、133世帯のマンション管理組合の理事長としても活躍しました。その傍ら、労働組合の役員として社会貢献に励むなど、多忙な日々を送る一方で、夜は英会話を学び、サッカーやスキーなど様々な趣味を楽しんでいました。この時期、人生の充実感を深く味わっていました。

やがて体調を崩し退職したものの、その期間に人生の方向性を見直しました。偶然届いた聖書勉強会の案内が転機となり、1994年には川口福音自由教会で洗礼を受け、クリスチャンとして新たな人生を歩み始めました。「神様のご計画に従う」信念が、私の生きる支えとなりました。

2005年アルツハイマー型認知症と診断されましたが、現在も元気です。

2007年、趣味として始めた絵画は、私の新しい情熱の一つです。臨床美術に取り組み、個展を開催するほどになりました。1997年川口市リアアで、2023年には朝霞市役所で個展を開き、山陰の出雲でも個展を開き、訪れた人々と芸術を通してつながる喜びを得ました。この臨床美術は、単なる趣味を超え、心身の健康や人々との交流の場として私の人生に深く根付いています。

現在、私は老人ホームで生活を送っています。過去には経済的な不安もありましたが、自宅マンションを売却したことで安定した暮らしを実現しました。週2回の絵画教室やヘルパーとの日常の中で、体調を見ながら無理なく生活を楽しんでいます。

私が歩んできた道は決して平坦ではありませんが、今振り返ると、どの瞬間も価値のある時間だったと感じます。数学的な思考とITスキルを駆使し、創造性を磨き続けてきた私は、今もなお「自分らしく」生きることに全力を尽くしています。